

【資料】

感染症流行予測調査（平成14年度）

藤井理津志，濱野雅子，葛谷光隆（微生物科），妹尾安裕（保健福祉部健康対策課）

[キーワード：感染症，サーベイランス，ポリオウイルス]

1 はじめに

本調査は厚生労働省委託事業の感染症流行予測調査の一環として行われている。本年度岡山県ではポリオの感染源調査を実施したので、その結果について報告する。

2 材料および方法

感染症流行予測調査実施要領（平成14年度）および伝染病流行予測検査術式（平成7年度）¹⁾に従って実施した。

岡山市内のS保育園の健康な園児60人（0～1歳20人，2～3歳20人，4～6歳20人）からポリオ生ワクチン投与後2ヶ月以上経過した平成14年7月30日～8月7日の期間に糞便を採取し，FL細胞を用いてポリオウイルスの分離を行った。

3 結果および考察

表1に年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績を示す。ポリオウイルスの分離はすべて陰性であった。

その他のウイルスとしてエコーウイルス6型(E6)21株（0歳児3人，1歳児9人，2歳児2人，3歳児2人，4歳児1人，6歳児4人），エコーウイルス13型

(E13)5株(3歳児3人，4歳児1人，6歳児1人)，アデノウイルス1型(AD1)1株（5歳児1人），が分離された。

E6は岡山県内の結核・感染症発生動向調査では6～9月に12株分離されたが，エンテロウイルスの中では分離数は特に多くはなかった。平成14年度の分離は全国的にも6～9月に多かったが，エンテロウイルスの中では報告数が多くはなかった²⁾。全国的な分離状況を考えると夏期を中心として本ウイルスの小規模な浸淫があったと考えられる。

E13は岡山県内の結核・感染症発生動向調査では6～8月に44株分離され，エンテロウイルスの中では分離数が最も多かった。平成14年度の分離は全国的にも5～9月に多かったが，エンテロウイルスの中では報告数が最も多かった²⁾。全国的な分離状況を考えると夏期を中心として本ウイルスの広範な浸淫があったと考えられる。

AD1は岡山県内の感染症発生動向調査事業では8月と12月に各1株検出され，アデノウイルスの中では分離数は少なかった。平成14年度の分離は全国的に季節的な偏りはなく検出され，アデノウイルスの中では比較的多く検出された²⁾。全国的な分離状況を考えると本ウイルスの小さな浸淫があったと考えられる。

文 献

- 1) 厚生省保健医療局エイズ結核感染症課・国立予防衛生研究所流行予測事業委員会：伝染病流行予測検査術式，1995
- 2) 国立感染症研究所，厚生労働省健康局結核感染症課：病原微生物検出情報，Vol.24, No.4, 99, 2003

表1 年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績

年齢群 (歳)	検体数	ウイルス分離				
		ポリオ	E6	E13	AD1	合計
0～1	20	0	12	0	0	12
2～3	20	0	4	3	0	7
4～6	20	0	5	2	1	8
合計	60	0	21	5	1	27